

刻む会 たより

No.53

2014. 7. 3

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

共同代表

井上洋子・内岡貞雄・木村道江

事務局

宇部市常盤町一―一九(宇部緑橋教会内) TEL 0836(21)8003

活動カンパ

振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 015907132405

名義 長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

ホームページ

<http://www.chouseitankou.com>

『刻む会』再発足を祝う

「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」元事務局長

澄田亀三郎

私は、一九九三年八月に宇部教会から益田教会に転任した。早いもので、あれから21年になる。島根県の益田市は、私達夫婦にとって故里である。「お前、逃げる気か」とも言われた。私達の内面にも同様の気持ちがあった。だからこそ、この間、事務局会にも出席し続けることができたのだと思う。今回、「刻む会」が規約を持つ団体組織として再発足することになった。しかも、その第一回総会の議長を務めさせて頂いた。ありがたかった。

「刻む会」の組織がこれまでと大きく変わったのは、事務局会の在り方である。これは、選任された運営委員がその任を担うこととなる。これは、責任体制を明確にするためである。さらに「総会」が最高決議機関となり、普段は、運営委員会が責任をもつ。勿論、運営委員会には共同代表の3名

等も加わる。

共同代表の顔ぶれから分かるように、「刻む会」においても世代交代が進んでいる。今後、正会員、賛助会員をはじめ多くの皆さんのご支援をお願いする気持ちである。

今後の大きな課題は、ひとつは「遺骨の収集」である。私達日本人は、従来からそうであったように、韓国遺族会の意向を斟酌しながら活動を推進しなくてはならない。何故なら、民族によって、国民性や風俗習慣は違うからである。韓国遺族会と十分に意見を交わしながら実践する事となる。

また、追悼ひろばの充実、検討中の「子どもたちの絵画展示」なども課題のひとつであろう。

奇しくも、長生海岸のピーヤは2本あり、それを模した犠牲者追悼碑も2つである。「刻む会」では2つの追悼碑で、ひとつと認識している。

将来、この2つのピーヤに「虹の橋」が架かって、日朝・日韓の平和と友好の絆が強くなることを期して、これからも努力を続けたい。

ソウルからのたより

大和裕美子

アンニョンハセヨ。「刻む会」最年少の大和裕美子です(笑)この度、博士論文「長生炭鉱水没事故の記憶の構図と記憶実践―「長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会」を事例に」を九州大学に提出しました。「刻む会」の皆様には多大なご協力をいただきました。本当に皆様のおかげです。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございます。

ところで、私はいまソウルにいます。早いものでソウルへ来て2年半以上が経ちました。ソウル大のアジア研究所というところで勉強しています。ソウル大は明洞などがあるソウルの中心地からはちょっと離れていて、山に囲まれた自然豊かなところです。

いまだに辛い食べ物は苦手です。学食でも辛いメニューが多いです。注文する前に「辛いですか?」と尋ねると「あんまり辛くない」という答え。でも信じちゃいけません(笑)韓国人の言う「あんまり辛くない」=「とても辛い」なのです。それではまた ^ ^

【大和裕美子さんの紹介】

「刻む会」旧事務局メンバー。現在、ソウル大学亜細亜研究所東北アジアセンター研究員／博士として活躍中。長生炭鉱問題についての研究論文を作成。

長生炭鉱 春のフィールドワーク

「地元の皆さん」と一緒に歩きました

「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」 共同代表

内岡貞雄

【はじめに】

「今朝は東風（こち）が吹いとるがのう」と地元漁師Aさん。

「天気はお昼まで持ちますか？」と心配そうな私。

「そうやのう、これから小雨か、もしかしたら本降りになるかももう」。

結局、二〇一四年三月二十九日（土）実施のフィールドワークは昼前から雨脚が激しくなり、昼食を兼ねた参加者の「交流会」は、追悼ひろばの隣家Aさんの車庫を使わせていただくことになりました。Aさんのご配慮には心から感謝します。

【二〇〇六年に竣工した海岸道路を歩く】

海岸道路は二〇〇六年に完成したのですが、長生炭鉱から新浦地区に架かる「新えがしら川橋」はすでに20年前に出来ていました。工事が大幅に遅れたのは、宇部市と頼尊さん一家との土地問題交渉が暗礁に乗り上げていたためで、両者の話し合いの解決？でやっと海岸道路の竣工にこぎつたという経緯があります。橋の上から新浦会館が見えますが、ここの床下にかつての新浦炭鉱の（のちの長生炭鉱二坑）斜坑口があり、そこから海底坑道は西南西方向に走っています。新浦炭鉱は一九二一年十二月

末に「水非常」が発生（海底下30メートル未満の場所）、34人の犠牲者を出して以後は長らく休業していました。しかし、一九四二年二月三日の長生炭鉱「水非常」のあと、同年六月に新浦炭鉱は長生炭鉱に合併され、その二坑として再び採炭が始まったのです。

「新浦炭鉱殉難者之墓」はかつての長生炭鉱内にあたる宇部市下水道（西岐波ポンプ場）の北、西岐波共同墓地の一角に「大きな自然石と台座」が置かれています。台座部分に犠牲者全員の名前が刻まれており、朴天基（パク・チョンギ）という朝鮮人の名前も左端に見ることが出来ます。ここから少し西に向かうと、浜中長生集会場が見えてきます。ここは以前、「刻む会」主催の追悼集会の会場になっていました。その児童遊園の場所にはかつて「西岐波火葬場」がありました。火葬場は、長生炭鉱だけでなく、新浦地区、向坂、梶取、白土、吉田等々、西岐波地区の広い範囲で住民の皆さんに利用されていました。長生炭鉱社宅にて病気等で亡くなった方や炭鉱の坑内外事故で亡くなった方々の火葬も多かったそうです。

ここから海岸道路の西方に、かつての長生炭鉱の経営者の住居があります。この隣接地に「合宿所」と呼ばれる平屋四棟があり、強制連行された朝鮮人独身者が住まわされていました。ここは、周囲を高さ3・6メートルの板塀で覆われ、彼らは会社労務係による24時間監視下で暮らしていたの

紙芝居上演の様子が
宇部日報の記事に！

です。一九四〇年から四一年ごろ、「合宿所」には400人から500人を超える朝鮮人坑夫が収容されていたといわれます。（薛道述・ソルドスルさん、秋順徳・チュ・スンドクさんら元朝鮮人坑夫の証言。当時、西岐波小六年の金春粉・キム・チュンブンさん証言など。）

「合宿所」前で、フィールドワーク参加者のBさんが口を開きました。Bさんは一九四五年七月まで広島市幟町（のぼりち



水没事故を風化させない 長生炭鉱フィールドワーク



紙芝居を上演する主催者（長生炭鉱追悼広場で）

海に沈んだ長生炭鉱。長生炭鉱追悼広場で開くフィールドワークは、これに参加した10人が海底で、宇部市床波十目の炭鉱で起きた水没事故に

宇部日報（2014.4.3（木））

引き継ぎ紙芝居「アボジに海の底」の上演、入場や平和の大切さを絵画や詩・劇で表現するパフォーマンス、碑文の朗読、17年前にヒヤ・排気口の入り口から引き上げられた坑木片の展示などがあつた。

最後に新浦炭鉱殉難者の墓、長生炭鉱の会社事務所・倉庫跡、ヒヤの見える海岸など関連する史跡などを回った。

（浅野）

よう)に住んでおりましたが、原爆投下の週間前にお姉さんのいる宇部市西岐波の吉田(白土海岸近く)へ移り住んだそうです。「当時、広島に居住していた被差別部落の方々や韓国・朝鮮人の皆さんは、軍需工場の過酷な労働を強いられ、しかも『住む区域を指定』され、そこが空襲目標になる危険な場所と思ってもほかの場所に移ることはできなかったんですね。彼らを受け入れる町は、当時どこにもなかったんですよ。そこは爆心地に近かったので、原爆でお亡くなりになった方々も多くいらつしやるのではないかと思いますよ。」私たちはBさんの話に引き込まれました。

長生炭鉱の朝鮮人坑夫は、本坑口から約2000メートルの海底坑道の先端できわめて危険な状況と隣り合わせの中、採炭作業を強いられたのです。二番方で入坑する坑夫は午前十時頃に早い昼食を食べたそうですが、鶴嘴(つるはし)の音が止まると漁船の焼玉エンジン音「ポン・ポン・ポン・ポン……」がとても大きく聞こえたそうです。彼らは、海底坑道に入ると水没事故や予想される事故のことなど「何も考えないこと、思考を止めること」が自分を落ち着かせる最も有効な方法であったとい

います。Bさんの話された広島島の抑圧された方々も、おそらく同じ状況下で強制労働に従事していたのであろうと思います。しかも彼らの大多数は原爆の犠牲者となってしまったのです。

「戦争は、人間が人間でなくなってしまう」と言われますが、まさに「戦争は、最大の人権侵害である」ことを肌で感じたフイールドワークでした。

【終わりに(多くの子どもたちの参加を期して)】

今回、春のフイールドワークは13人の参加で、子どもたちは少数でした。この時期、小・中学校では転任する先生方とのお別れ会や子ども会行事、あるいはスポーツ大会などが行なわれているようです。元来、春のフイールドワークや夏の学習会は、子どもたちを対象として始まった行事です。子どもたちがエンジョイできるような内容を工夫することとともに、日程の設定も考慮しなくてはならないと思います。例えば、春のフイールドワークはウィークデーの計画が考えられます。また、「長生炭鉱追悼ひろば」をより魅力的で楽しい場にするために「子どもたちの描いた絵画(陶板壁画)や明るい平和な未来を誰もが想像できる企画」も喫緊な課題となります。



「長生炭鉱追悼ひろば」看板前の山口武信元代表(現顧問)

活動日誌

(前回たより以降)

- ▽三月一〇日(月) 「刻む会たより」発送作業
- ▽三月一四日(金) 事務局会議
- ▽三月一五日(土) 一六日(日) 真相糾明ネットワーク全国集会参加(京都・立命館大学)
- ▽三月二九日(土) 春のフイールドワーク実施
- ▽四月 九日(水) 山口朝鮮初中級学校補助金カット抗議の県庁前座り込み参加
- ▽四月一一日(金) 総会準備会
- ▽四月一七日(木) 事務局会議
- ▽四月一八日(金) 駐広島大韓民国総領事との懇談会
- ▽四月二八日(月) 総会資料発送作業
- ▽五月一二日(月) 総会準備会
- 山口朝鮮初中級学校補助金カット問題について宇部市議会文教民生委員会委員長と副委員長との懇談会
- ▽五月一四日(水) 山口朝鮮初中級学校補助金カット抗議の県庁前座り込み参加
- ▽五月一六日(金) 事務局会議
- ▽五月一九日(月) 真相糾明ネットワーク事務局長の小林さん現地訪問及び交流
- ▽五月二一日(水) 総会準備作業
- ▽五月二二日(木) 宇部市との協議
- ▽五月二四日(土) 第一回定期総会
- ▽六月 一日(日) 「日本人と在日韓国・朝鮮人の歴史を訪ねる会(筑豊)」フイールドワーク受け入れ
- ▽六月 四日(水) 第一回運営委員会
- ▽六月一八日(水) 山口朝鮮初中級学校補助金カット問題について宇部市教育委員会と協議

第31回「筑豊」から日本人と在日韓国人・朝鮮人の歴史を訪ねる会

― 長生海岸で「アリラン」、バスで「コヒャンへ（故郷へ）」の歌声が響く ―

1 筑豊の皆さんとともに

二〇一四年六月一日（日）、さわやかな新緑の一日、参加者22人の皆さんと「下関（朝鮮通信使・倉庫群）」から宇部の長生炭鉱を一緒に学ぶ機会を得ました。



西光寺の183名の位牌を
前にした参加者の皆さん

参加者は福岡市1名、北九州2名、筑豊19名でした。「訪ねる会」（代表 占部哲生さん）主催のフィールドワークは今年で31回を数え、私も第26回（住友忠隈炭鉱跡）と第28回（三菱飯塚炭鉱）に参加させてもらいました。事務局の占部哲生さんと柴田正彦さんは毎年、事前調査を必ず行なっており、それが「訪ねる会」の充実した新しい内容をつくり、多くのリーダーや新たな参加者を生みだす力になっているようです。お二人は、昨年の「長生炭鉱犠牲者追悼碑」除幕式と今年の「長生炭鉱水没事故72周年

犠牲者追悼集会」に参加されて、第31回のフィールドワーク候補地として「長生炭鉱」を選んでくださいました。

2 下関の「朝鮮通信使石碑」、「倉庫群跡」を訪ねる

平家滅亡にかかわる赤間神宮は、長く阿弥陀寺（あみだじ）と呼ばれてきました。江戸時代、11回にわたり下関に上陸した朝鮮通信使一行は、「阿弥陀寺」と「引接寺（いんじようじ）」を宿泊所としました。しかし、第1回から第3回まで朝鮮王朝は、豊臣秀吉の朝鮮侵略（朝鮮ではウエランと呼ぶ）によって拉致された数十万人の朝鮮人（医師・陶工・土木技術者・一般人）を取り戻すことに重きを置いていたため、江戸幕府が「朝鮮通信使」と呼んでも、朝鮮王朝では回答兼刷還使（探賊使）と称して来日し、朝鮮への帰国者を探し求めたのです。だが、帰国できた人数は6,323人にとどまり、拉致者の1割にも満たない人々しか帰国できなかつたのです。赤間神宮前の広場に「朝鮮通信使上陸淹留之地」の石碑（二〇〇一年八月六日建立）が建っていますが、朝鮮通信使の当初、朝鮮王朝は拉致された朝鮮人を取り返すという使命を持っていたことを理解することは大きな歴史の事実になります。対馬藩の対朝鮮外交担当として有名

な雨森芳洲の「誠信之交隣」だけを見ようとするのは本当の歴史を理解したことになりません。

下関の観音崎町・南部町の「倉庫群」は「あるかぼ」と開発」で22棟（9社）の倉庫群が一九九五年までに解体し、その歴史を消されてしまいました。しかしまだ20個の繫船柱が残されていることで、かつての岸壁跡と倉庫群が想起され、強制連行の歴史を掘り起こさせてくれるものになっています。この場所にあった倉庫群は一九四〇年から敗戦まで、強制連行された朝鮮人が押し込まれ、北海道の炭鉱、信州のダム開発や軍事施設、長崎の軍事工場等への列車が用意できる間、ここに収容されたのです。

3 西光寺と長生炭鉱跡

西光寺に「水非常」犠牲者183名の位牌が安置されています。当日、「刻む会」の会員が、全部の位牌を並べてくれました。韓国・朝鮮人犠牲者名は「日本名」で書かれており、筑豊の小・中学校で教鞭を執られている先生方は「創氏改名」という歴史の事実を単なる知識を超えたところで学び取っておられたようでした。一つひとつの位牌が遺族とつながり、海の底の犠牲者とながつていることも実感されたようです。「長生炭鉱追悼ひろば」では、「刻む会」では2つの追悼碑を1つととらえているという経緯の説明をしました。

また「長生炭鉱本坑口」の場所が、一九八七年撮影の一枚の写真から把握可能であ

ることを説明しました。一九四二年二月三日当日、「本坑口」付近は、「人間の生と死」がはっきり分かれた場所となつて、遺族にとつて絶対に忘れることのできない所になっているのです。

4 終わりに（帰路のバスでの感想から）

○長生炭鉱は、大潮のため海底が顔をのぞかせており、海岸近くにあるピーヤ（排気・排水筒）前まで歩いて行きました。2本のピーヤに向かつて、みんなで「アリラン」を歌いました。沖合いの海の底に眠る一八三人の犠牲者の皆さんにもこの歌声が届いたのではと思います。

（Sさん）

○海岸道路から見えるピーヤはなんだろう。何も知らなければ煙突のような筒にしか見えないが、説明を聞くと、周辺の海底坑道には「水非常」で多くの犠牲者が今なお海の底に眠ったままであることがわかりました。私は子どもたちを関西や沖縄などに平和学習の一環として連れていく仕事にかかわっています。いつかここ長生炭鉱の地にも子どもたちを連れてきたいと思います。

（Nさん）

○一九四五年終戦の年、私は旧制の中学生でした。一九四二年に宇部炭田（長生炭鉱）で大きな事故があったことは記憶にありました。いつかこの地を訪れたいと思っていました。その思いを実現できたり良かったです。配布された資料をしつかり読んでみようと思います。（Kさん）

○今日のフィールドワークに参加する前に、長生炭鉱に関する記事をインターネットで調べてみました。しかし、現地を歩き、現地で説明を受けた内容は事前に得ていた情報にはありませんでした。（Tさん）

○ペ・レソンさんが亡くなったのは二〇〇八年六月十七日、今年は七回忌にあたります。レソンさんと「刻む会」は一九九九年一月三十日（57周年追悼集会）にレソンさんが講演を行なつて以来の長いお付き合いです。これからも「刻む会」との交流を大切にし、ご協力できるところがあれば協力し、今後もしっかり連帯していきたいと思っています。

（無窮花の会 理事長 吉柳順一さん）

○終戦の時アボジは16歳でしたが、2歳上の姉と二人の弟は祖国に帰りました。それから58年後、姉たちが来日する機会がありました。ともに再会を喜び合いました。お互い70歳を超す歳になつており、幼い日によく歌つた日本の歌と一緒に歌いました。これからも「過去の歴史」をしっかりと見ていきたいと思っています。

（Rさん）

○宇部では長生炭鉱水没事故のような「負の歴史」を覆い隠そうとする動きを感じました。そういった権力（圧力）に負けないという方々の存在を、出席者の皆さんから感じ取ることができました。負けてはいけません。（Nさん）

○「故郷へ」（コヒャンへ）の歌を歌いまし

た。いつの日か海の底に眠る遺骨が故郷へ帰れることを祈らずにはおれません。

（Sさん）

○フィールドワークで、その場所に行き、自分の足で立って、自分の耳で聞く。そして自分の頭で、心で考えることが、どれだけ自分のものになっていくのかを考えさせられました。海に突如現れた2本のピーヤを見つめた時の衝撃は、鮮明に心に刻まれています。この海の底に坑道があつて、そこにはたくさんの人が働いていました。そして今でも、その遺骨が海底に沈んだままにあるのです。海を前にして心にせまるものがありました。

（Tさん）

○長い間、「刻む会」の皆さんが調査されてきた事実に基づいて案内していただいたので、深く考えることができました。長年の取り組みに敬服します。長生炭坑の水没事故が一九四二年、吉隈炭坑（麻生）の坑内火災が一九四一年。この時期、戦争に坑夫がかり出され、その穴を埋めるために朝鮮人や捕虜が使われたのです。熟練工も少ない中、安全への配慮もないままに増産が命じられたために事故が多発したのではないだろうか。

（事務局長 柴田正彦さん）

「強制連行を考える会」涉外担当のペ・トンノクさんが、①一九九九年一月以降のペ・レソンさんと「刻む会」との交流・繋

がり ②「刻む会」の十数年にわたる歩み、とりわけ追悼集会 ③「刻む会」が追悼碑建立のための土地入手にいかん苦労したか等々、ぺさんは記憶をたどりながら、その一端を語った。



海岸にて

(大潮でピーヤ付近まで潮が引いている)

最後に、「強制連行を考える会」代表の占部哲生さんが、「長生炭鉱の遺骨は72年もの間、海に放置されたままの状態から、『刻む会』により遺骨収集が進もうとしている。一方、筑豊では無窮花の納骨堂(116体)に名前のついた遺骨が安置されているし、各地のお寺には名前のわかった遺骨もあり、故郷に戻る日を待ち望んでいる。そうした遺骨について、私たちはその返還が少しでも前進するように努力しなくてはならないと思う。」と話された。そして、好天気に恵まれ、充実したワールドワークを無事に終えられたことを皆さんとともに喜びたいという挨拶で締めくくられた。

【文責 内岡貞雄】

事務局会議・運営委員会報告

事務局長 小畑太作

二〇一四年三月以降、事務局会議は2回、新たに発足した運営委員会は1回開催。以下、主な事項について。

① 駐広島大韓民国総領事来訪

年度替わりで着任された新総領事が、四月十八日(金)、宇部市長・山口市長・山口県知事への表敬訪問の合間を縫って、「長生炭鉱追悼ひろば」へ来訪。当会は四名で対応することとし、現地を案内した後、近くのレストランで昼食懇談。

② 「追悼碑」の拡充

長生炭鉱をテーマとした絵画設置と、一九九七年にピーヤから引き上げた坑木展示について日本ハウスより草案の提示を受け検討。

③ 「追悼ひろば」所有権移転

日本基督教団宇部緑橋教会への所有権移転の手続完了。移転に伴う課税は、いずれも免除。

④ 宇部市長との協議

第二十二回が五月二十二日(木)開催。約2時間の協議。市側の全く不誠実不明瞭な対応を職務怠慢として抗議。次回からは誠実な対応を約束。内容については進展なし。

⑤ 「第8回強制動員真相究明全国研究集会」受入

真相究明ネットワーク事務局長の小林久公さんが五月十九日(月)来訪。現地案内の後夕食懇談。三月予定の標記集会について打合せ。集会は、当会にとっても助けになる集会に。そのために今後は、当会からの様々な情報を、特に遺骨等の収集に関して、メールリングリストを通して発信していくことに。

⑥ 遺骨等の収集に関する件

元設計士より事故現場からのアプローチ方法について提言。次回運営委員会において詳細説明を受けることに。／真相究明ネットワークを介して、六月二十三日(月)厚労省への交渉行動に当会よりも二名を派遣。

⑦ フィールドワーク受け入れ

来訪者にとって、より充実した機会となるよう、洋上見学等諸プランを検討中。

⑧ 山口朝鮮初中級学校への助成金カット問題について

山口県政に引き続き宇部市政による今年度予算カットに対し、二月二十四日(月)「抗議と要望書」を提出。四月三日(木)宇部市市長・教育長連名による「回答書」。「回答書」は市立学校に行くよう言明。当会は市議会議員との懇談を経て六月十八日(水)回答書に関して市教委へ抗議と要請。

⑨ 日本人と在日韓国・朝鮮人の歴史を訪ねる会(筑豊)第三十一回フィールドワーク

六月一日(日)約二十名の参加により実施。当会は三名で対応。

⑩ その他

三月二十二日(土)横川輝雄さん(強制動員真相究明ネットワーク)より秋順徳さん(元労働者)による坑内図提供。三月二十六日(水)韓国真相究明委員会より、釜山に建築される強制連行歴史資料館への当会の展示承諾依頼に対応。四月七日(月)下関のダイバーへの聞き取り調査。NHK福岡より番組「ガチアジア」制作のための取材協力依頼に対応。従来の「夏のフィールドワーク」を「夏の学習会」に改称し企画立案。詳細は同封の案内書。『刻む会たより』五十三号の企画発行準備

☆一般会計報告 1 (2014 年 3 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

(円)

収 入				支 出			
科 目	期間実績	累 計	備 考	科 目	期間実績	累 計	備 考
前期繰越金	0	200,000		事務費	5,943	25,693	
カンパ(寄付金)	65,720	894,066	下記※	広報費	2,722	283,929	会報誌送料他
物 販	35,700	216,400	証言・資料集	追悼碑管理費	2,545	138,476	電気代他
雑収入	0	5,685		活動費	80,750	1,426,964	追悼集会他
繰入金	631,360	631,360	特別会計より	税 金	0	53,449	
				雑支出	1,800	3,000	振替手数料他
				他団体会費等	0	16,000	
				小 計	93,760	1,947,511	
				繰越金	639,020	0	
合 計	732,780	1,947,511		合 計	732,780	1,947,511	

※井上洋子 宇佐美睦朗 岡崎絹江 岡田淳子 加藤好美 木原千成 金静媛 河内山宏司 佐藤セツ子②
 関田寛雄 田中正美 趙忠男 土井桂子 長澤連三郎 庭山真生 梁川福心 平井靖男 福田富美子 藤井和義
 藤本明美 山内弘恵② 吉田和子 その他 2 件 (敬称略)

☆一般会計報告 2 (2014 年 4 月 1 日～2014 年 6 月 27 日)

(円)

収 入				支 出			
科目	期間実績	累計	備考	科目	期間実績	累計	備考
会 費	268,000	268,000	下記☆	事務費	13,754	13,754	
寄付金	554,500	554,500	下記★	広報費	64,249	64,249	会報誌送料他
物 販	15,600	15,600	証言・資料集	会議費	0	0	
雑収入	0	0		追悼碑管理・拡充費	1,283	1,283	電気代
特別会計繰入金	0	0		活動費	27,940	27,940	派遣費
				他団体会費等	23,000	23,000	
				雑支出	1,700	1,700	手数料
				小 計	131,926	131,926	
				繰越金	706,174	706,174	
合 計	838,100	838,100		合 計	838,100	838,100	

☆正会員 55 名 (個人 51 名・団体 4 名)、賛助会員 95 名 (個人 93 名・団体 2 名)

★安溪遊地 占部哲生 江口廣子 遠藤 巖 呉世憲 大隅督子 小野 輝 金 優② 香渡清則
 紺谷知也 田上 中 辻 健 永富彌古 藤里美智子 宮田幸好 矢儀保子 山下隆夫 大和裕美子
 日本基督教団廿日市教会 日本基督教団東広島教会 (敬称略)

☆特別会計報告 (2014 年 3 月 1 日～2014 年 6 月 27 日)

(円)

収 入				支 出			
科 目	期間実績	累 計	備考	科 目	期間実績	累 計	備 考
繰越金	0	5,259,766		ひろば追加工事	0	555,450	
繰入金	0	0		繰出金	631,360	631,360	一般会計へ
				繰越金	0	4,072,956	
合 計	0	5,259,766		合 計	0	5,259,766	

以上、感謝をもってご報告いたします。

引き続きのご支援をお願い申し上げます。



第一回 定期総会 報告

書記 山内弘恵

去る、二〇一四年五月二十四日（土）、長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会の組織強化を目的とした、新たな出発のための第一回定期総会が開催されました。参加者は正会員数54名のところ、実出席20名、委任状出席21名、合計出席41名でした。（別途、傍聴者2名参加）

まず総会を開催するに至った経緯及び経過を事務局より報告し、議案の審議に移りました。議案は左記のとおりで、旧事務局より議案が提案され、全て異議なく採択されました。

※なお、後日、総会議事録を作成し、議事録署名人に確認していただいています。

【議案】

議案第1号 規約（案）承認に関する件

議案第2号 議長並びに書記選任に関する件

議長 澄田亀三郎 書記 山内弘恵

議案第3号 議事日程承認に関する件

議案第4号 議事録署名人選任に関する件

佐藤坤子 岡崎絹江（日本基督教団宇部教会）

議案第5号 運営委員選任に関する件

① 共同代表

井上洋子 内岡貞雄 木村道江

② 書記

山内弘恵

③ 事務局長

小畑太作

④ その他運営委員

木岡靖司 金静媛 佐々木明美

藤井和義 横山潤

徐鶴奎（在日本大韓民国民団山口県地方本部）

議案第6号 顧問選任に関する件

島敬史 山口武信

議案第7号 会計監査委員選任に関する件

真鍋みどり 宮本輝男

議案第8号 二〇一四年度活動計画案承認に関する件

〈目的〉この団体は、一九四二年二月三日、長生炭鉱で起こった水非常（水没事故）を歴史から消すことなく、誠実に向き合うことを通し、朝鮮半島の人々並びに在日コリアンとの友好と親善を育み、平和を作り出すことを目的とする。

〈活動計画〉

1. 遺骨・遺品等の収集と返還

（一）ピーヤからのアクセスや坑口の後の調査など、収集実施に向けた諸調査を行う。

（二）現存する遺族のDNAを収集し保管する。

（三）国・県・市の各行政に取り組みを促す。

2. 追悼式・追悼集会の開催

73周年追悼集会を開催する。

3. 学習会・研究会およびフィールドワークの開催

（一）「1.」の活動を進めるための学習・研究を行う。

（二）従来通り、長生炭鉱のことを通して歴史と平和を学ぶための学習会やフィールドワークを開催、また受け入れを行う。

4. 追悼碑の拡充

（一）子どもたちの学習のため、また地域との連携を図るため、追悼ひろばに、子供達の絵画の設置を進める。

（二）現在、放置状態にある坑木等を展示するための設備を整える。

5. ピーヤの保存

行政との交渉を進める。

6. 証言・資料（史料）の収集と編纂

第三集の発行に向けて準備をする。

7. その他、目的を達成するために必要な活動

（一）上記の活動を進めるために、地元自治体である宇部市の協力を得るための粘り強い交渉を継続する。

（二）「刻む会だより」を年四回発行するとともに、通信先リストを管理し発送先を検討し経費の削減に努める。

（三）募金活動を充実させる。特に遺族招聘のため、また4. ー（一）のための募金活動を行う。

（四）その他、運営委員会の討議を経て、目的を達成するために必要な活動を行う。

議案第9号 二〇一四年度収支予算案承認に関する件

議案第10号 議長並びに書記解任に関する件

お知らせ

2015年3月21日（土）～22日（日）

第8回強制動員真相究明全国研究集会

in 宇部（21日）

長生炭鉱現地フィールドワーク（22日）

を開催します！

全国の多くの研究者や活動家にこの問題を知ってもらい、手をつないでいく重要な集会となります。

皆様のご協力お願いいたします！

この総会は、会として新たな出発となりました。まだまだ未熟ではありますが、新運営委員一同、責任を痛感し、決意を新たにしております。遺骨収集という大きな目標を新たに加え、活動が全国規模で広がっています。

遺骨収集という目標を実現するためには、莫大な費用も力も必要です。会員の皆様をはじめ、多くの支援者の皆様の更なるご協力が必要です。一人でも多く支援者を増やし、多くの知恵を結集し、実現に向けて共にがんばりましょう！